

空き家を活用した地域活性化 『内子町に新しい価値を作る』

合同会社アソビ社 山内 大輔



内子晴れ立ち上げの経緯

2014年に私は地域おこし協力隊として内子町にやってきました。地域を知っていくために300軒以上の家々を訪問し、数多くの地域行事に参加しながら内子町に好きな人が増え、また、好きな場所を日々見つけながら、『豊か』と思う暮らしにたくさん出会ってきました。そういった暮らしを情報発信しながら、協力隊の任期中は移住促進の仕事を中心に、空き家の調査や移住希望者の案内などをしていました。その中で、築170年の素敵な物件に出会いました。町並み保存地区の入口にあるこの物件は、最初に見たときから旅の拠点になるイメージがありゲストハウスに適していると思っていました。そのイメージを持って大学時代の友人の建築家に相談しに行ったことからゲストハウスの構想が始まります。

内子町は観光地として少しずつ確立されてきていますが、宿泊者の数はかなり少なく、日帰り客がほとんどです。私の思う内子の魅力とは、日帰りでは味わえないもので、ガイドブックに載っている

ようなところだけでなく、町中で出会う人の温かさや、ゆったりとした時間の流れ、美しい棚田の向こうに沈む夕暮れなど、内子の暮らしの中に垣間見える日常に浸っていくことです。私は外から来た人を数百人案内してきましたが、やはり地元の人に、暮らしに、日常に寄り添えた時に楽しさ、居心地の良さを感じていました。そのため、ゲストハウスを考えていくうえでは、ゆっくり泊まらないとわからない内子の魅力を伝えていくこと、旅人と地域の人がつながるような拠点づくりをすることをまず考えていきました。そしてプロジェクトを開始するにあたり、建築家、グラフィックデザイナー、プロダクトデザイナーと4名でチームを組み、専門家ならではの視点も入れ込みながら、内子の遊び方や見せ方を一工夫し、より内子を遊びつくせるようにしていくことを目的として合同会社アソビ社を立ち上げました

古民家改修で苦労した点

計画が進んでいくなかで、実際に古民家を借りていくこと、そして古民家ゆえ



作業中



作業中

に解体をしなれば全容がわからない物件に手を加えていくことにはそれなりの覚悟が必要でした。

ある程度の費用は事前に見積もりを出しましたが、

実際に解体をした結果、躯体がシロアリにやられている箇所がいくつかあり、切り落とし大工さんに『根継ぎ』をしていただきました。この根継ぎ費用に加え、